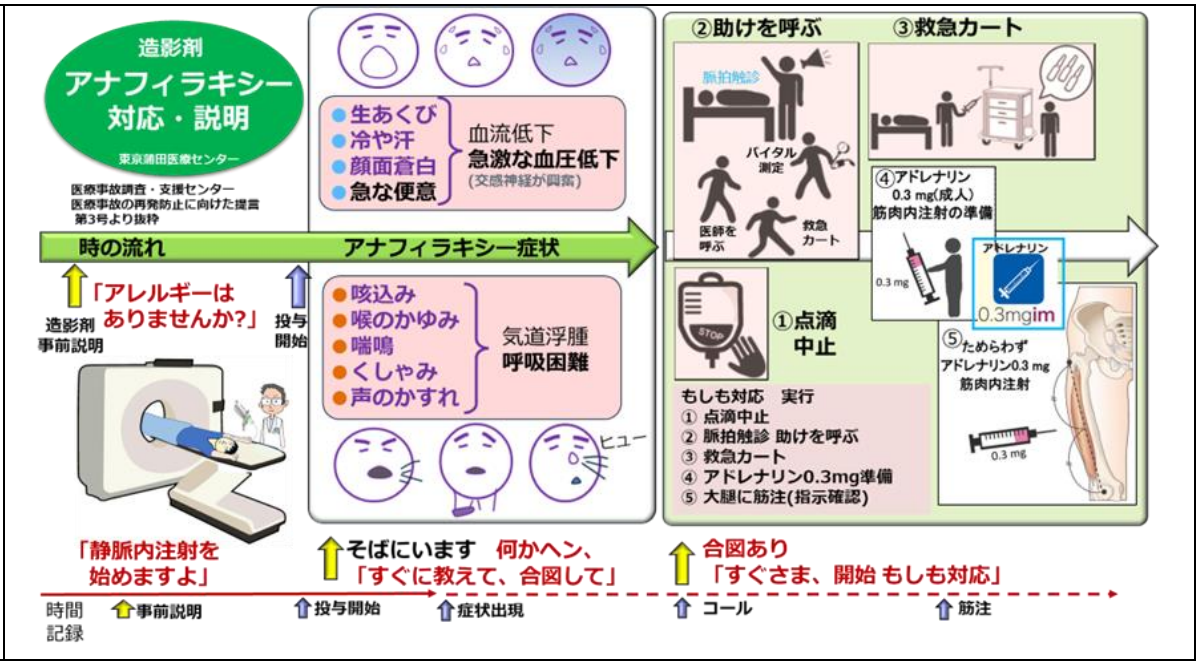
造影剤によるアナフィラキシーショックについてのご説明

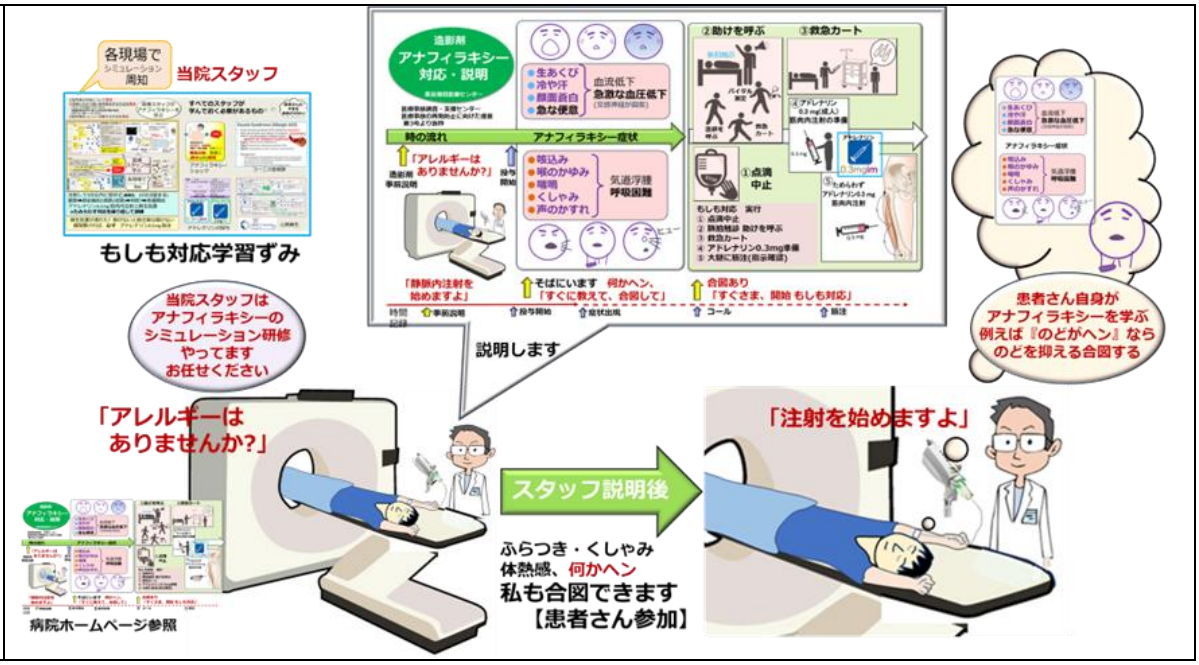
造影剤によるアナフィラキシーショックは、以前投与をして問題がなかった患者さんでも今回は発生する可能性があり、時に致命的な状況にもなる危険な合併症です。

説明図表おもて



当院の造影剤投与に関係するスタッフは、アナフィラキシーが発生した際に迅速に対応できるように、繰り返してシミュレーション訓練を行っております。患者さんにも予めアナフィラキシー症状を説明（説明図表おもて）して、ためらいなく声出しできるようにご協力いただいております。造影剤投与後に「何かヘン」がありましたら、そばにいますのでお声かけください。合図をください(説明図表うら)。

説明図表うら



アナフィラキシー発生疑いでアドレナリン 0.3mg を準備開始、症状が続く、または血圧低下の場合等、準備したアドレナリン 0.3mg を大腿に筋肉内注射させてもらいます。致死的な緊急事態を考慮しての対応となります。迅速に最善の対応をいたしますのでご安心ください。 ご不明な点がありましたら、どうぞお問合せください。

JCHO 東京蒲田医療センター